

福井大学 医学部 腫瘍病理学教室 (病理学 1)

私たちは「糖鎖病理学」の研究をしています。



小林 基弘 教授



法木 左近 准教授



星野 瞳 助教

■ 研究内容

テーマ 1: 糖鎖病理学 (種々の疾患における硫酸化糖鎖の機能解明) (小林, 星野)

血流中のリンパ球は、リンパ節や扁桃といった二次リンパ組織に集まり、そこからリンパ管を介して再び血流中に出ていくという再循環を繰り返しています。この現象は多段階の分子相互作用によって精密に制御されていますが、その最初のステップはリンパ球表面に発現している糖鎖結合タンパク質であるLセレクトインと、高内皮細静脈内腔面に発現している硫酸化シアリルルイス X 糖鎖との相互作用によって、惹起されます。私たちはこれまでに、各種慢性炎症性疾患で高内皮細静脈様の血管が誘導されており、その血管内腔面に発現する硫酸化シアリルルイス X 糖鎖がこれらの疾患の病態形成、及び活動度に関与していることを報告してきました。また、種々の癌における糖鎖の発現意義についても研究を行っています。

最近発表した論文

Inamura S, Ito H, Taga M, Tsuchiyama K, Hoshino H, Kobayashi M, Yokoyama O. Low-dose docetaxel enhanced the anticancer effect of temsirolimus by overcoming autophagy in prostate cancer cells. **Anticancer Res.** 39(10): 5417-5425. 2019.

Inamura S, Ito H, Shinagawa T, Tsutsumiuchi M, Taga M, Tsuchiyama K, Kobayashi M, Yokoyama O. Serum C-reactive protein level is associated not with prostatic inflammation but with overactive detrusor in patients with benign prostatic hyperplasia. **Neurourol Urodyn.** 38(6): 1728-1736. 2019.

Tsutsumiuchi M, Hoshino H, Kogami A, Tsutsumiuchi T, Yokoyama O, Akama TO, Kobayashi M. Preferential expression of sialyl 6'-sulfo N-acetylglucosamine-capped O-glycans on high endothelial venules in human peripheral lymph nodes. **Lab Invest.** 99(10): 1428-1411. 2019.

テーマ 2: 感染症の新規診断法とオートプシーイメージング (法木)

感染症の新規診断法とオートプシーイメージングに関して、研究を行っています。感染症の新規診断法として、白癬に対して、新しく作製したモノクローナル抗体を用いた免疫クロマトグラフィー法による簡易診断法を開発しました。また、感染症のPETイメージング剤の開発に関して、候補となる化合物を見出して合成し、動物感染モデルでのPET画像化を行っています。また、ご遺体のCT, MRIを撮影するAiに関して、その病理像と画像との対比検討や死因の一致率などの検討を行っています。

最近発表した論文

Noriki S, Lino S, Kinoshita K, Fukazawa Y, Inai K, Sakai T, Kimura H. Pathological analysis of cadavers for educational dissection by using postmortem imaging. **Pathol Int.** 69(10): 580-600. 2019.

Ishida H, Noriki S. Novel detection technique of dermatophytes: tube method. **J Dermatol**, in press.

Kitano F, Kinoshita K, Noriki S, Inai K. Postmortem intravascular gas caused by antemortem bacterial sepsis. **Intern Med.** 58(3): 457-458. 2019.